様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 1 日現在

機関番号：13103
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007　～　2010（平成 2009 年度研究代表者産休等のため期間延長）
課題番号：19500504
研究課題名（和文）　教員の資質としての間身体的コミュニケーション力の研究
ーポートフォリオを活用してー
研究課題名（英文）　Consideration about the Authentic Communication Skills in Teacher Training Course: Utilizing Portfolios
研究代表者
大橋　奈希左（OHASHI　NAGISA）
上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：90283043

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、教員養成課程入門期の学生を対象とした「体育」、特に表現運動・ダンス領域の授業の中で、教員の資質として、「間身体性」をキーワードとしたコミュニケーション力を育成しようと試みた。まずは、学習者の自己評価の量的なデータをもとに、教材の妥当性を検証し、次に学習者の内省文をもとに、評価項目を精選した。また、最終年度には、学習者同士の相互評価を目指して、互いにメッセージを送る欄を設けた学習カードを作成し、その記述をもとに相互評価のための指標を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Using portfolios, this study designed learning “Authentic Communication Skills”program for PE lesson by Teacher Training Course First-years student. For the programs, the self-assessment and peer- assessment were tried.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	600,000	180,000	780,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学（感性の教育）
キーワード：教員養成，間身体性，コミュニケーション力，ポートフォリオ

１．研究開始当初の背景

本研究課題申請時は、子どもたちの表現・コミュニケーション能力の低下が叫ばれて久しいこと、また子どもとコミュニケーションをとることができない先生の実態が明らかになったと報じられたこと等の社会的背景を受け、教員養成課程の体育の授業の中で、「間身体性」をキーワードとして、「コミュニケーション力」が身についていく学習過程を明らかにすることを目的にしようと構想した。

だが、実際に教員養成課程の「体育」、特に表現運動・ダンス領域の授業の中で、学習者の「身体コミュニケーション」にかかわる学びについて考察を進めるためには、まず教材を選定してプログラムを開発することからはじめる必要があった。そこで、初年度は、研究代表者・研究分担者がそれぞれに教材を選定して、二大学で授業を実施、先行研究をもとに、学習者による自己評価の項目を選定して、その回答を量的データとし、教材の妥当性を検証するところからはじめられた。

２．研究の目的

本研究課題は、教員養成課程入門期の「体育」特に、表現運動・ダンス領域の授業を対象として行われた。そこでは、体ほぐし・レクリエーションゲーム・ダンスを教材としたプログラムを開発した上で、「間身体性」をキーワードとした「コミュニケーション力」を教員の資質として育成することが目指された。研究の目的は、次の３点であった。

(1)身体コミュニケーション力を育成するためのプログラムを開発し、妥当性を検証する。
(2)非言語コミュニケーションに関するキーワードを選定してそれをもとに評価項目を精選する。
(3)学習者の相互評価のためのキーワードを選定する。

３．研究の方法

(1)教員養成系二大学の１年次「体育」、特に表現運動・ダンス領域の授業を対象とし、それどれの指導者が教材を選定してプログラムを作成して、授業を実施し、学習者の自己評価を量的データとしてその妥当性を検証した。
(2)S 大学の授業後、学習者の内省文から「言葉以外のものによって伝わったこと」に関する記述を抽出、分類し、教材の違いを超えて共通に出現したキーワードを選定し、そのキーワードを含めた評価項目を作成した。
(3)J 大学で、学習者が相互にメッセージを送り合う欄を設けた学習カードを作成し、その記述と最終レポートをもとに、学習者の相互評価のためのキーワードを選定した。

４．研究成果

(1)二大学で実施されたプログラム

① Ｊ大学の基本プログラム

1回目	○じゃんけんぐるぐる(ペアの活動)○アルプス一万尺（手遊び/ペアの活動）○線路は続くよ（手遊び/ペアの活動）○じゃんけん列車○エーデルワイス（サークルでの活動）○リズムダンス○トレーニング○リラクゼーション
2回目	○三月三日のもちつき（手遊び・リズム遊び/ペアの活動）○私・あなた（4人組での活動）○チュン・チュン・パクッ　（サークルでの活動）○頭・肩・膝・ポン～リズムダンス(ペアの活動)○トラストウォーク（ペアの活動/チェンジあり）
3回目	○体ほぐし(ペアでの活動)　○ペーパームーブメント「風になろう」山風/たつまき(ひとりで）手でキャッチ/お腹でキャッチ/いたずら風さん/追い風さん/イメージして動こう　○ウェーブをつくろう(6～10 人組みでの活動)
4回目	○ロンドン橋　◎グループでフォークダンスの資料をもとに動きを理解して、クラス全体に教えよう！マイムマイム/グスタフス・スコール/エース・オブ・ダイヤモンド/キンダー・ポルカ/コロブチカ

② S 大学の基本プログラム

5．1回目	○オリエンテーションとグループ編成○フェルデンクライスメソッドによる体ほぐし○自己紹介ゲーム○プレイバルーンを使ったレクリエーションゲーム「鬼なしフルーツバスケット」「ボールころがし」「ドームづくり」　○レクリエーションダンス「恋のダイヤル 6700」(全員で輪になってユニゾン)
2回目	○フェルデンクライスメソッドによる体ほぐし(２人組)　○レクリエーションゲーム「子取り鬼」「ヤートサークル」(グループ単位で→クラス全体で)　○レクリエーションダンス「恋のダイヤル 6700」(パートナーあり)
3回目	○フェルデンクライスメソッドによる体ほぐし(２人組)○レクリエーションゲーム「木とりす」「フープリレー」(グループ単位で)→「ギアボックス」(クラスを半分にわけて)　○レクリエーションダンス「恋のダイヤル 6700」(パートナーチェンジあり)「オブラディ・オブラダ」

４回目	○フェルデンクライスメソッドによる体ほぐし　○２人組でミラーリング　○グループで輪になって動きのまねっこ　○レクリエーションゲーム「震源地は誰だ?」　○レクリエーションダンス「恋のダイヤル 6700」「オブラディ・オブラダ」ｸﾞﾙｰﾌﾟ創作と発表

(2)自己評価項目の精選

S 大学で学習者の内省文の非言語コミュニケーションにかかわる記述をもとに選定されたキーワードは下記の通りであった。

＜ダンス教材におけるキーワード一覧＞

・アイコンタクト　・相手の動き方　・相手の動きを予想　・相手の気持ちが感じられる　・相手を気遣う　・一緒に動く　・一体感　・動きで自己表現　・動きの勢い　・動きの大きさ　・笑顔　・お互いに理解し合おうとしている　・踊っていると楽しくなってきた　・顔の表情　・体全体で表現　・気持ちの変化　・言葉にしづらいことを動きで表現　・自然と声を出す　・自分達で考える　・自分たちで創ったダンスの楽しさ　・自分もがんばろう　・真剣な表情　・楽しさが伝わる　・だんだんオープンに　・友達の楽しそうな様子　・仲間意識が強くなる　・仲間内でのみ通じる共通のテーマ　・仲間の楽しそうな様子　・発想が豊か　・話したことのない人とも楽しく活動　・雰囲気　・皆が真剣に　・皆で息を合わせる　・身振り手振り　・目の表情　(計 36)

上記のキーワードをもとに作成された評価項目は下記のとおりであった。

新たに作成された評価項目	先行研究で作成された評価項目(小松崎・高橋(2003)より引用)[5]
１．　あなたは仲間と楽しく授業に参加することができましたか。	１．*あなたのグループは今日課題にしたことを達成することができましたか。*
２．　あなたは仲間の体を大切にして、丁寧に関わることができましたか。	２．あなたは*グループの皆で成し遂げたという満足感を味わうことができましたか。*
３．　あなたは仲間の意見に耳を傾けたり支持したりできましたか。	３．*あなたのグループは友だちの意見に耳を傾けて聞くことができましたか。*
４．あなたは課題の達成に向けて仲間と積極的に意見を出し合えましたか。	４．*あなたのグループは*課題の達成に向けて積極的に意見を出しあうことができましたか。
５．　あなたは仲間に声をかけることができましたか。	５．あなたは*グループの友だちを補助したり助言したりして助けることができましたか。*
６．　あなたはアイコンタクトを使って仲間と一緒に動けましたか。	６．あなたは*グループの友だちをほめたり励ましたりしましたか。*
７．　あなたは表情や動きから相手の気持ちを感じることができましたか。	７．あなたは*グループ*がひとつになったように感じましたか。
８．　あなたは試行錯誤しながら動きを工夫することができましたか。	８．あなたは*グループのみんなに支えられているように感じましたか。*
９．　あなたは仲間を励ましたり支援したりすることができましたか。	９．*あなたは今日取り組んだ運動をグループ全員で楽しむことができましたか。*
１０．　あなたは仲間と一つになったように感じましたか。	１０．*あなたは今日取り組んだ運動をグループ全員でもっとやってみたいと思いますか。*

(3)学習者の相互評価に向けて

① J 大学で作成した学習カードのメッセージ欄の記述の分類例（最終時間）

ア．相手のポーズ・動き・表情・アイデア等を肯定的に受け止め、評価するもの

イ.感謝やねぎらいの言葉

ウ.ある活動についての感想や最終時間すべての活動についての感想を伝えるもの

エ.二人で活動することの充実感を伝えるもの

オ.○○が相手で良かったあなたとペアでよかったという相手への肯定感を伝えるもの

カ.相手に対する気づきあるいは相手との相性のよさを伝えるもの

② 学習者の相互評価の指標となるキーワードの選定

上記①等の分類と最終レポートの記述を考察した結果、学習者の相互評価の指標となるキーワードとして、「相手からの支援」「相手の活動」「協動できたこと」を選定した。

(4)まとめと今後の課題

本研究課題では、教員養成課程入門期の「体育」、特に表現運動・ダンス領域の授業の中で「間身体性」をキーワードとした「コミュニケーション力」の育成が目指された。初年度は、二大学で教材を選定してプログラムを開発、学習者の自己評価の量的データから、その妥当性を検証した。次年度は、学習者の内省文を手がかりとして、自己評価項目を精選した。最終年度は、学習者の相互評価を目指して、学習カードにメッセージ欄を設け、キーワードを選定した。

今後は、作成した評価項目と選定したキーワードをもとに、学習カードのメッセージ欄をカンファレンスシートの役割を担えるものへと高めていくことが課題となる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 廣兼志保・大橋奈希左（2008）教員養成課程入門期の学生のための身体教育プログラム開発―協同学習による間身体的コミュニケーション力の育成をめざして―, 島根大学教育学部附属教育支援センター紀要　第 7 号, pp. 39-52.

② 廣兼志保・大橋奈希左（2009）大学体育授業における身体コミュニケーション力育成のための実践研究―学習者の内省文を手がかりとした評価項目の作成―, 島根大学教育学部紀要　第 43 巻（教育科学）pp. 31-39.

③ 大橋奈希左・廣兼志保（2011）教員養成課程における身体コミュニケーション力育成のための実践的研究―学習者の相互評価を目指して―, 舞踊教育学研究　第 13 号 pp. 21-29.

〔学会発表〕（計２件）

① 廣兼志保・大橋奈希左(2007) ゲーム・ダンス・体ほぐしによる交流活動～間身体コミュニケーション力の育成を目指して～, 指導法発表, 日本教育大学協会全国保健体育・保健部門 第 27 回全国創作舞踊教育研究発表会

② 大橋奈希左・廣兼志保（2010）教員養成課程における身体コミュニケーション力育成のための実践研究―振り返りのための学習カードの作成―,研究発表, 日本教育大学協会全国保健体育・保健部門 第 30 回全国創作舞踊教育研究発表会

６．研究組織

(1)研究代表者

大橋　奈希左（OHASHI　NAGISA）

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：90283043

(2)研究分担者

廣兼　志保（HIROKANE　SHIHO）

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号：00234021

(3)連携研究者